

直方の歴史と文化

雲心寺の東蓮寺藩二代藩主黒田之勝の墓

文 榊正澄

第 38 回

雲心寺の黒田之勝の墓

第35回で紹介した通り、山部の雲心寺の本堂裏手の墓地の最も高い場所にあるのが東蓮寺藩初代藩主の黒田高政と殉死した四人の側近の墓で、一段下がった北側にあるのが二代藩主黒田之勝の墓です。

初代高政から二代之勝への相続

高政から之勝への相続は通常の父から子へ、ではなく叔父から甥へという変則的なこととなりました。高政は1639年9月に病床に臥して11月に逝去しました。享年28の若さでした。

正室はいましたが子は無く、まだ若かったので生前に養子を迎える手



直方・雲心寺の二代藩主黒田之勝の墓

続き（幕府に申請し承認が必要）をとっていかなかったために、法的には東蓮寺藩は廃絶のほずでした。福岡本藩の藩主黒田忠之（高政の兄）は自分の次男万吉（のち之勝、高政の甥）を高政の養子とすることを幕府に申請し、1640年に特例として認められました。

先年の島原の乱で家老が戦死するなど激戦の上、戦功をあげた東蓮寺藩の活躍を直接目にした老中松平伊豆守信綱の口添えが大きかったと伝えられています。

黒田之勝は1634年の生まれでこのときわずか6歳でした。

二代藩主黒田之勝の時代

之勝は先代高政と同じく、のちに従五位下に叙せられ東市正に任ぜられました。

当時の大名は幕府の命により各種の役務を果たさなければならず、小藩の財政には大きな負担でした。既に初代高政の時にも、大坂城本丸の石垣修復、島原の乱への出兵を務め、二代之勝のときにも、1649年將

軍家光の日光東照宮参拝の際の江戸市中警固や、1656年には勅使下向の際の接待役を、後の元禄時代の浅野内匠頭と異なり無事務めました。

黒田之勝の逝去

之勝は1663年、江戸藩邸で逝去しました。享年30。東蓮寺藩では二代続けて藩主が若死にしました。

法号は「乾徳院殿高峯宗堅大居士」。死の直前に幕府から殉死禁止令が出されていたため殉死者はいません。墓は高政と同じく江戸の祥雲寺（現在の東京都渋谷区広尾）、直方市山部の雲心寺の他に博多の崇福寺にあります。

之勝には女子はいましたが嗣子となる男子はなく、東蓮寺藩は再び藩の危機を迎えました。



江戸・祥雲寺の二代藩主黒田之勝の墓 (増井幸憲氏撮影)

文化財に関する問い合わせ

文化・スポーツ推進課社会教育係
(TEL 25-12326)

人の動き

■人口 57,007人 (-314) ■世帯数 27,004世帯 (+141)
〔うち外国人 465人〕
男 26,880人 (-76) 全て平成30年3月末現在
女 30,127人 (-238) ()は前年同月との比較

編集後記

鋤田正義さんの写真展では、著名な音楽家の写真から昔の直方の街並みをとらえた写真まで、実に様々な写真が展示されています。表情豊かな写真の数々に、時間を忘れて見入ってしまいました。(Y)

携帯電話向け情報提供サービス



直方市
ホームページ
市の情報がもりだくさん



情報メール
「つながるのおがた」
緊急情報、イベント情報など



直方市
Instagram
さあ、あなたもフォロー!

- ◆発行…直方市 〒822-8501 福岡県直方市殿町7番1号
URL <http://www.city.nogata.fukuoka.jp/>
- ◆発行日…毎月1日、15日(月2回)
- ◆編集…企画経営課ふるさと情報係
TEL (0949)25-2236 / FAX (0949) 24-3812
E-MAIL n-koho@city.nogata.fukuoka.jp
- ◆印刷・制作…久野印刷株式会社

